

飯舘村長泥地区環境再生事業技術検討ワーキンググループ（第5回）

議事要旨

日 時	令和元年9月19日（木）13：30～15:30		
場 所	飯舘村役場 2階第1会議室		
出席者	委 員	飯舘村	<ul style="list-style-type: none"> ・飯舘村長泥行政区 鴨原 清三 ・飯舘村内農業有識者 菅野 元一
		学識経験者	<ul style="list-style-type: none"> ・特定非営利活動法人放射線安全フォーラム 多田 順一郎 ・国立研究開発法人農業・食品作業技術総合研究機構 農業環境変動研究センター 環境情報基盤研究領域 土壤資源評価ユニット兼本部企画戦略本部 上級研究員 万福 裕造
	事務局等	<ul style="list-style-type: none"> ・飯舘村復興対策課・建設課 ・環境省環境再生・資源循環局環境再生事業担当参事官室 ・福島地方環境事務所中間貯蔵部中間貯蔵総括課土壤再生利用推進室 ・原子力安全研究協会 ・復興庁福島復興局 ・除去土壌等減容化・再生利用技術研究組合 ・サンコーコンサルタント ・アジア航測 	
議事要旨	<p>○事務局より「土壌濃度分別機の性能確認方法について」の説明を行った後、質疑応答により以下の点が確認された。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・住民の方に対しては、分かりやすく理解していただくために、濃度分別で振り分けられるところが確認できるよう検討する。 ・土壌濃度分別機の性能確認については、別途WGメンバーで実施する。 ・来年度以降の本格事業において、濃度分別状況を住民の方が抜き打ちでチェックできる方法について別途検討すること。 <p>○事務局より「試験栽培の現況について」の説明を行った後、質疑応答により以下の点が確認された。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・移行係数は、10月末に結果を出して次回の運営協議会で報告する予定。なお、運営協議会に報告するデータは、ワーキング等で事前に確認することが望ましい。 ・科学的にしっかりと評価した上で内容を記載すること。 <p>○事務局より「今後の盛土実証について」の説明を行った後、質疑応答により以下の点が確認された。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・前回（小テントでの再生資材化）の再生資材化では、（1）破袋→（3）異物除去→（2）改質材添加→（4）濃度分別、の順でやったことをしっかりと追記し、今回提案している再生資材化の作業工程との違いを記載すること。 <p>○事務局より「本格事業に向けた検討状況について」の説明を行った後、質疑を求めたが特にコメントはなかった。</p> <p>○事務局より、参考資料1「実証事業におけるモニタリング結果」の説明を行った後、質疑応答により以下の点が確認された。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・モニタリング結果については、ただ記載するのではなくどのような目的で取得したのか分かるように整理して示すこと。 ・空間線量がすぐに分かるようにモニタリングポストを設置してもらいたい、というのが地元の要望であるので、事務局は対応について検討すること。 		

○その他、以下の点が確認された。

- ・長泥の実証事業について飯舘村の村民向けの広報誌等で取り上げることを検討すること。
- ・現地で盛土に使用している再生資材の放射性セシウム濃度の実測値を掲示すること。

以上